

令和5年度 第2回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和5年11月29日（水） 午前10時～正午
場 所： 新潟市万代市民会館 307・308 研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
塩沢委員、高橋委員、多田委員、田中委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
石崎課長、竹田課長補佐、三間主査、大塚職員、弦巻職員

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 令和5年度事業報告（4月～10月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（塩沢委員） 参加者の男女によるアンケートの受け取り方はどう違うのか。例えば、No.6「メディアリテラシーについて考える講座」は男女の評価の違いがアンケートで一つにまとめられているが、どのように分析しているのか教えてほしい。また、No.12「上映会」で男性37人の年代を教えてほしい。データがなければ、会場の様子からでもよい。

（大塚職員） No.6「メディアリテラシーについて考える講座」の男性の年代の内訳は、20代1人、40代1人、50代2人、60代2人の6人。グループワークでは席は自由だったが、女性の中に男性1人のグループでは、和やかに話しをしていて、同じグループの女性からは男性の意見が聞けてよかったという声があった。

（竹田補佐） No.12「上映会」の男性の年代の内訳は、申し訳ないが手元に資料が無いため分からない。様子を見てみると年代の高い方が多く、年代の高い男性の方が一人で観に来ている姿が増えたように感じている。今回、不妊治療という内容だったが、ご自身がそういう年齢の対象でない方かもしれないが、不妊に悩んでいる方や大変な思いで不妊治療をされている方の状況を知っていただく機会になったのではと思う。周りの方の理解が大切だと思うので、多くの方に見ていただけたことはよかったと思っている。

（塩沢委員） アンケートはジェンダー統計につながると思う。男女の参加者の把握から中身的にどういった意識のずれを持っているのかということまで踏み込んでいくことで男女別の参加者のアンケートをとる意味があると思う。そこまで踏み込んだ分析をぜひお願いしたい。

（田中委員） 何を見て申し込んだかをすべての講座で比較してみた時に、男性の生き方（子育て期）では、市報が一人もいないのが興味深い。全般的にLINEが増えているように思う。チラシ、市報、新聞とかは意識を持って自分で探していくと思うが、LINEはどのように講座参加者に届いているのかわからなかった。きっとこれからLINEなどは大切になると思うし、男性にどうやって届けるかという意味では面白いと思う。

（大塚職員） 新潟市の公式LINEアカウントについては、それぞれがどの区でどんな情報

をほしいかということ登録する時にチェックする。市のルールとして、講座に関しては開催区でしか配信できないため、講座の対象者がどなたでもの場合は中央区で対象を絞らず、男性が対象の場合は中央区で男性、子育て世代や定年期の方を対象とした講座では年代によって絞るなど、こちらもターゲットを絞って、情報がほしい人も自分がほしい情報だけを得るというやり方で行っている。講座によって配信される人数が異なる。市のLINEで市報は配信されているが、講座情報を掲載している情報ひろばを細かく見るかといった若い世代の方は見ない方が多い印象。LINEを配信することによってアルザを知らない方に申込みをしてもらえることがとても多いので、公共施設を利用していなくても、知っていただく機会になることが増えてきた。ただ、市のLINEに登録していない人には届かないので、ロコミや他の講座に参加したパートナーの方から伝えていただくというアナログな方法になってしまっている。SNSは検討課題だと思っている。

(田中委員) 市のLINEに登録しようと思うかどうかなので、その他の方法はどこかの施設でチラシを見て二次元コードから入っていく形になると思う。一般的に見てチラシが強いと思った。チラシの中に市LINEの二次元コードをつけたら、チラシを見た人が今度は市のLINEの方から情報を得ようになるのかなと思った。

公民館のゆりかご学級などに参加した方でよく聞くのが、子育て期の夫婦で参加できる講座がないという方が結構いらっしゃる。もちろん男性だけで集まることは大切だが、たぶんこれからは次のステップとして、どこかのアンケートで更年期の話を家に帰って夫にしたことがよかったと感想に書いてあったが、お互いの学びを夫婦で話すことは大切だと思うので、アルザでも子育て期の男性、女性どちらも参加できる講座があるとよいと思う。そういう講座を求めている人の話をよく聞くのでお願いしたい。

(竹田補佐) 今年度は子育て期の夫婦で参加する講座は行わないが、昨年度は男性の生き方講座(子育て期)で夫婦参加の回と夫婦参加の子育て支援講座を開催した。お互いの学びを夫婦で話すことは大切なことだと思うので、また男性の生き方講座(子育て期)の講座の中で夫婦参加の回を検討するなどしていきたいと思う。また、中央公民館で子育て期の夫婦向けの講座を開催している。その開催状況とも併せて考えていきたいと思う。

(高橋委員) 資料1の所で、定員の充足率はそれぞれの講座でどのくらいか。極端に低い講座は特になかったか。

(竹田補佐) 多くの方から興味を持っていただけるようにニーズを考えながら企画しているので、各講座にある程度は申込みをいただいている。申込みが少ない場合は更にいろいろな所にチラシ配布を行うなどしている。より多くの方に興味を持っていただき、申込みしていただけるよう工夫していかなければならないと思っている。

(多田委員) No.1「女性の生き方講座」の学習目標の「女性の在り方」とあるが、参加者にどのようにしてあり方を考えてほしいと思いついたのか教えてほしい。No.2「男性の生き方講座(子育て期)」の第2回で「愚痴が出た。」という感想があったが本音で話せたことだと思うので、とても良い回になったのだなと思った。この講座でいつも思うのが、追跡調査ではないけれど講座の後にステッ

プアップのような感じで、パパが学んだ後にママとどうしていききたいのかというのを具体的に考えられる回があったら、もう一回振り返る機会になり、その時は夫婦で参加できるとお互いの気持ちやこんなことを学んできたというのを共有しやすいと思う。

(弦巻職員) No.1「女性の生き方講座」の学習目標の「女性の在り方」は企画会議から出たもので、当初は体のことを重点的という意見が強かった。それだと昨年度と同じものになるので、体のこととそれに繋がる心の問題もあるという所に繋げて考えていった。そこから女性の生理や更年期の問題が出てきて、それらを職場や家でも我慢してしまうのはなぜか、という所に意見が発展していった。生きづらさの原因は自分のせいという思い込みを俯瞰して見るために、思い切って法学の視点を入れた。気持ちの部分だけではなく、枠組みはどうか、女性はどういう歴史を歩んできたのか、法としてはどのように見ているのかという視点で、女性の生き方を考えてみようと考え、「在り方」という言葉を使って講座を組み立てた。

(大塚職員) No.2「男性の生き方講座(子育て期)」の終了後に1~2か月経った後にステップアップとして夫婦で受けられたら、とてもよいと思う。昨年度は第1回に夫婦参加の回を設けて、妻が主導の参加が多かったが、今回の講座では内容を考慮して全て男性だけにした。講座で学んだ後の回でというのは、とても有意義だと思うので、参考にさせていただきたいと思う。

(永田委員) 1点目は昨年度も同じ話をしたと思うが、ことさら男女に分けなくても、男女の垣根を外した方がいいのかなと思う。男性育児休業の取得を促進するよう法律が変わったが、それにまつわるアンケートに「男性の労働者も育児休業を取りたがっている。」というデータがある。そこから考えるのは強引かもしれないが、特に若い方はあまり男女の差の垣根が自分と比べて低い気がしている。そういう人たちに参加してもらい、より垣根を下げてもらうとか、そういう意味では性別をことさら意識しないような内容も盛り込んでもらうとよいと思う。

2点目はできればということでお願いだが、資料1に全体を俯瞰した内容が出ていますが少しわかりづらいので、できれば円グラフになっている部分などの全体の状況がわかるようにしてほしい。参加人数が多いことや満足度が高いことがよいというのは全体としては言えると思うが、個別に見ていくと参加人数が少なくても、満足度が低くても価値があるというのは、出てくると思う。それを踏まえた意味でも、全体の平均と比べてどうなのかがわかる資料がほしい。

3点目はオンラインを使って講座をしているのは非常によいことだと思うが、中断があったという話が2回くらいあったが、理由はわかるか。

(大塚職員) ポケット Wi-Fi を使っていた時はギャラリービューにすると容量が大きくなり、ポケット Wi-Fi では負荷がかかり対応できなかった。庁内 LAN を使い有線に対応した時は、平日の講座だと市全体で使っているの、市全体の負荷がかかっている中で接続が混みあったことで切断してしまったようだ。

(永田委員) 庁内 LAN であれば閉庁日は割と融通が利くのではないか。

(竹田補佐) 事前のリハーサルはしているが、本番になるとリハーサルでは起きなかった不具合が毎回、何かしら出てきて、その原因を市の情報システム担当課に問い合わせると、リハーサルでは予測していなかったことが原因で不具合が起こることがあった。

(永田委員) 苦労は察する。折角、前進したことなので、苦労はあると思うが、何らかの形で継続するよう検討してもらいたい。

(竹田補佐) 1点目の講座の対象者を男女に分けるとということについては、例えば女性の生き方講座は内容によって女性同士でないと話がしにくい、共有しにくいという所もあり、また男性の生き方講座(子育て期)では内容によって夫婦参加の回を設けたりしているが、今回の第2・3回のパパ同士の話し合いのように男性同士が話しやすい部分があるということで男女に分けた講座を設けている。全体のバランスを考えながら、男女に分けないどなたでも参加できる講座も実施していく。

2点目の資料1については、検討する。

(塩沢委員) 男女の垣根を越えてということだったが、アルザは男女共同参画の推進拠点という貴重な施設で、公民館とは違う特殊な役割のある施設だと思っているので、現実に男女の差別が存在する限りはそこに問いかけるような役割を果たして行ってほしい。

男性の生き方講座(子育て期)の講座終了後の追跡のような回というのはおもしろいと思う。実施したことの効果を具体的に参加者がどのように活かしていくのかは大事な所だと思う。

オンラインだと大勢の方が参加し、定員の充足率も高いので、万代市民会館全体でだめなら、一部の部屋だけでも回線を引くことができないかと思う。単独では難しいと思うが、私たちの団体でも声を上げていくので、諦めずにやってほしい。

(永田委員) 一方通行になると思うが視聴するというのであればYouTubeというやり方もあるので、何かいい方法を検討して行ってほしい。

(高橋委員) 男女共通に表れてきている問題が中にはある。男性の生き方講座(定年期)や女性のための再就職支援講座はあるが、定年を迎える女性も多くなってきているので、女性の需要を取りこぼしていないか、メッセージが届いていないのか、ということも考えられると思う。男女を分けて講座を開催することは必要だと思うが、それ一方だけではないような気がする。

(竹田補佐) ご意見のとおり、社会の状況の変化を踏まえて講座を考えていきたいと思う。

4 その他

(1) 男女共同参画市民団体協働事業の見直しについて

(事務局) 前回の運営委員会で来年度の男女共同参画市民団体協働事業の方向性の案を説明した際に、団体がどのように考えているのかアンケートなどを行った方がよいというご意見をいただいたので、団体宛にアンケートを行った結果について報告する。

事務局よりアンケート結果の報告(資料2)

(塩沢委員) アンケートの対象団体はアルザの利用登録団体か。

(三間主査) アルザフォーラム2023ワークショップの参加団体にアンケートを行った。ワークショップの参加団体は活発な事業を展開していて、更に活動を進展していただくために、この事業を活用してもらいたいという気持ちがあったので、それらの団体にアンケートを行った。

(塩沢委員) 利用登録団体は年2回交流会があるが、そこでの働きかけはしていないのか。

- (三間主査) 登録団体交流会でも事業の働きかけは行っている。登録団体交流会などで、アンケートでいただいたように過去に採択された事業の例や具体的に PR をさせていただくとより事業のイメージをしやすく、前向きに検討していただけるのではないかとということがアンケートで読み取れたので、登録団体交流会ではそれらを踏まえた広報をしていきたいと思っている。
- (塩沢委員) 募集期間が早く、私たちの団体の中でも忙しくてやっていられないと言っているので、例えば次年度でもよいかということ募集期間を長くできないか。予算が絡んで難しいと思うが、別枠で来年度の希望を考えられれば、相談する期間が持てるのでよいと思う。
- (竹田補佐) 募集期間については2年前に変更して、以前は締切りがゴールデンウィーク明けだったのを5月下旬にして少し募集期間を延ばした。申請事業を運営委員会で審査する日程の兼ね合いや採択された後に事前協議、それから事業実施となるので、締切りが遅くなると日程的に厳しくなるため、そのような日程にしている。単年度予算なので、年度をまたいで事業を実施することは難しい。
- (田中委員) 意見ではなく確認だが、令和6年度は予算ややり方は変わらずにやるということは決まったことか、これから決まることか。
- (竹田補佐) 来年度予算は現在要求中だが、実施する場合は説明した方向で実施したいと思っている。それについての委員の皆様のご意見を伺いたい。また、周知が足りない部分もあるので、登録団体交流会でも詳しく話をして周知をしていきたいと思っている。
- (田中委員) どちらかに私たちの意見がほしいのか、わからない。
- (竹田補佐) アンケート結果を見ていただいて、「団体のニーズに合わせてこういうふうにした方がいいのではないかと。こういう所に周知していった方がいいのではないか。」などといったご意見をいただきたいと思っている。
- (永田委員) アンケートで応募しない理由に「人手が足りない。」、「手続きが面倒」、「応募したが選考漏れになった。」という回答があったので、審査段階に至るまでの間に「面倒くさい、じゃあ止めよう。」というのがあるのかなと思う。もし企画を立てようと考えている段階で伴走できる人がいるともう少し申込みのハードルが下がるのではないかとと思う。
- アンケート調査の団体数が20なのは母数が少ないと思う。単年度でどうこうという話ではないが、裾野を広げる作業がどうしても必要になると思う。
- 例えば、これなら大丈夫という話はできないと思うが、過去に数回申し込んだけど落ちたのは何か問題があるので、この辺をこうしたらいいのではないかななどのアドバイスをするのもよいのかなと思う。
- (多田委員) 同じような市民団体協働事業を行っている自治体があれば、そこから情報収集することによって改善点やうまくいく方法の糸口が見つかるかもしれないと思う。アンケートを依頼している団体数が少ないので、その中で答えを出すというのは難しいと思うので、もう少し視野を広げて参考になる糸口を見つけたらよいと思う。
- (高橋委員) 例えば、参加者15人以上、団体の人数5人以上の要件の緩和を検討したらどうか。
- (竹田補佐) 事業実施にあたって、ある程度の参加者を集められる内容、また団体でない事業を実施するということが難しいなどの理由でこのような要件にしている。

(塩沢委員) 手続きが面倒という声を聞くので、行政の手続きなのではないと思うが、何か簡略化できることがあればお願いしたい。

(三間主査) 手続きは面倒な部分はあると思うが、伴走があれば面倒さが軽減されて申込みしやすくなるのかなと思う。永田委員よりよい意見をいただいたと思っている。

(竹田補佐) 来年度の予算は要求中ではあるが実施する場合はということで、周知が足りない部分もあったので12月の登録団体交流会で詳しく周知を行い、興味のある団体にこちらの方から伴走するような形で応募への後押しをしていきたいと思う。また、他都市の事業も参考にしながら事業を考えていきたいと思う。

(2) その他

(事務局) 次回の運営委員会は3月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。